

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4078400175
法人名	社会福祉法人 久英会
事業所名	若久園グループホーム
所在地	福岡県八女郡広川町新代1389-117 (電話) 0943-32-9060
自己評価作成日	平成 25 年 4 月 20 日
評価結果確定日	平成 25 年 7 月 10 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

「御利用者の自立と尊厳を守る」という理念を基にして、認知力低下の予防やADLの維持、向上を図る為に、機能的自立度評価表（FIM）を取り入れ、それらを基に日々の活動やりハビリ、サークル等を行なう事で機能の維持に繋がっている。又、地域との交流にも力を入れており、自治会に加入し近隣の子供達との触れ合いや花見、餅つきなどの地域行事へ参加している。さらに事業所主催の納涼大会や行事への参加を呼びかけ、地域との交流に力を入れている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	平成 25 年 5 月 10 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

商業地帯の国道線沿いに、母体法人の福祉施設が複数あり、その奥に、外観が落ち着いた色合いの2階建て2ユニットの事業所がある。事業所内は明るく、共用空間は開放感があり、利用者が居心地良く過ごしやすい雰囲気である。また、各居室は洗面所とトイレを完備している。「自立と尊厳を守り地域に求められるサービスを」の理念を念頭に、職員は思いやアイデアを申し送りノートに記し、利用者の不安や求めていることをよく聴いており信頼関係ができています。運営推進会議を通して、本人・家族と地域住民や地元の関係者とのつながりが広がっている。

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅰ 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	御利用者様の自立と尊厳を守りながら支援を行い、理念に添った日々の営みを行う為に毎月月末に会議を行っている。	理念である「利用者の自立と尊厳を守り地域に求められるサービスを」を、朝礼時や月末の職員会議で確認し、理念に沿った日々のケアを全職員で共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事へ参加したり、地域の方へ施設の行事へ参加して頂いたりし交流を図っている。桜見物や地域のクリスマス会、どんど焼き等地域の一員として地域との交流を深め暮らし続ける様努めている。また、地域の方より季節の野菜を頂く等の日常的な交流がある。	町内会・自治会に加入しており、道路愛護や、地域のクリスマス会・どんど焼き等に参加している。事業所主催の夏まつりや文化祭等には声かけをして参加してもらうなど地域との交流を図っている。また、地域の方に認知症の勉強会を行ったり、小・中・高・専門学校の職場体験・実習の受け入れを行っている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域役員や家族との協力の下、地域の小学生を招待しおやつと一緒に作ったり、ゲームをしたりして認知症高齢者との触れ合いを行っている。又、地域の方向けに認知症の勉強会などを行なっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では御利用者様やサービスの状況、経過、今後の方向性等についての報告や説明を行い、家族や来園の方々との意見交換会を行いサービス向上に努めている。時期によっては、感染症、ノロウィルス、インフルエンザ等に関しての対策、説明を行なっている。	2ヶ月に1回、定期的に運営推進会議を開催している。現在の取り組み状況や今後の活動計画等を報告し、委員から意見・要望・質問等をもらっている。「利用者の日常生活を見たい」という家族からの要望で、事業所内を撮影したDVDを渡し、そこでの意見を活かしている。5月の運営推進会議では、バーベキューの食事会を開き、13家族19名の参加があり、雑談しながらの交流の場になっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、情報交換を行い、支援時の協力関係を築いている。また、地域包括支援センターの職員と交流を行い、協力関係を築いている。	日頃から行政へ運営に関する報告・連絡・相談、地域包括支援センターとの交流を行っており、行政と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。また、広川町高齢者等徘徊 SOS ネットワーク協力機関になるなど、行政との協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関して禁止となる具体的な行為を理解し、全職員で拘束のないケアの実践に取り組んでいる。 1名のご利用者に関して自傷行為、不潔行為に対し家族の承諾を頂きミトンを使用中である。	玄関にセンサーを設置し、日中は施錠していない。職員は利用者の外出傾向を把握しており、見守り・付き添い等を行っており、見守り方法の徹底やリスク対応等、利用者本位に考えている。身体拘束に関するマニュアルがあり、全職員が外・内部の研修を受講している。自傷不潔行為のある方1名に対して、事業所・家族で工夫を重ねながら、時折介護用ミトン（手袋）を使用している。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての勉強会を行い身体的な虐待だけでなく言葉や態度による虐待についても全職員が把握し、虐待が起こらないように、また見過ごさないように日頃から表情の変化や身体の状態などに注意を払っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員が権利擁護や後見人制度についての研修に参加しホーム内での全職員で勉強会を行い理解すると共に活用できるようにしている。	権利擁護に関する制度について家族に契約時に説明している。職員は制度に関する外・内部研修を受講している。テキスト・パンフレット・研修記録・報告書等整備している。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ前に本人、ご家族と十分に話す機会を設け説明を行い不安や疑問を解消して頂ける様努めている。改定の際にも全家族に連絡を行い直接説明を行なっている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コミュニケーションを図り利用者様の意見・苦情・思いなど自由に発言できる環境を作っている。運営推進会議の中で雑談の時間を取ったり食事を開催する事で意見や要求を言い易い雰囲気作りに努めている。意見の反映についてはすぐに対応できるよう努めている。	利用者・家族が運営推進会議に参加し、意見や思いを述べる機会があり、利用者の願いや要望等は解決につなげている。個別の写真入りの便りを発行し、利用者の日頃の暮らしぶりを家族へお知らせしたり、面会時にも声をかけ、話しやすい環境づくりに努めている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度職員会議を開催し職員の意見や提案を出し合っている。日頃から職員の気付きを大切にし提案を実行できるようにしている。	自己評価は全職員で取り組んでいる。申し送りノートや月末定期的に開催している職員会議で意見や気付き等何でも言える環境にある。食事メニューの1品は調理済み食材を利用する事で調理時間を短縮する等、運営の効率化に反映させている。隣接施設の職員間でソフトボール・ゴルフ等のサークル活動や勉強会を実施している。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職群転換制を取り入れ人事評価の結果により準職員から正職員に転換できるようになっている。賞与については半年ごとに評価を反映させている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の募集に関しては性別や年齢等を理由に採用するのではなく、きちんと面接を行い採用を行っている。働く職員に対しても能力を発揮し自己実現の権利が十分に保障出来る様に昇給制度だけでなく準職員の正職員登用制度を取り入れている。	採用は法人本部で行っているが、性別・年齢等を理由に採用対象から排除していない。外部研修等について年間計画を立て、職員に積極的に参加を呼びかけ、研修参加の機会が確保されるよう配慮し、自己実現が図れるよう支援している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	年間の勉強会の中に計画を立て、職員等に対する人権教育、啓発活動の教育を行なっている。	全職員は、人権教育に関する外部・内部研修に参加し、全員で人権に関する意識を共有している。テキスト・パンフレット・研修記録・報告書等整備している。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員を育てる取り組みとしてグループホーム勉強会を毎月実施している。又外部研修にも勤務年数や経験を考慮し、それぞれに合った研修に参加出来るようにしている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会への参加や外部研修に参加し同業者と交流する機会を設け意見交換などを行なっている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前の相談、面談の際に本人が何に困り不安で今後どのような生活を送りたいのかを本人と家族からじっくり話を聞く機会を設けている。入所後も本人の不安や希望をじっくりと傾聴し安心を確保する為の環境作りに努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談についてはご家族の都合に合わせ時間を作り対応している。ご家族の不安や心配事、困っている事にもじっくり耳を傾けながらご家族にも分かり易い言葉で説明を行っている。ご利用者様を前に相談し難い場合には個別に話を聞いて対応している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談や見学に見えた時に本人や家族が困っている事、どうしたいかを尋ねながら色々なサービスを紹介し選択してもらう方法を取っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備や片付け、洗濯物干し等を一緒にしながら、喜怒哀楽を共にし生活している。様々な場面で御利用者様の経験談等から学ぶことが多々あり、お互いに支え合うことが出来ている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族への面会の声掛け、誕生会や行事への参加の呼びかけ等を行い本人と家族との関わりを絶やさないように努めている。本人を連れての外出、外泊など協力をして頂き、情緒の安定に努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御利用者様の希望を聞き、外出行事を毎月行っている。また美容室や買い物等の個別外出の機会を設け、なじみの場所へ出掛けている。遠方などの理由により面会が難しい方については新聞を作成し家族や親戚の方へ送るなどして関係の継続に努めている。	馴染みの美容室や買い物へ行く等、個別外出の機会を設けている。知人の面会や近所の方からの旬の物の差し入れ等、これまでの関係の継続や地域住民とのつながりが継続できるよう支援に努めている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	御利用者様同士で係わり合いを持ち必要に応じてお世話をされたりしている。利用者様同士のコミュニケーションが上手く図れない時は職員が間に入り一緒に会話を楽しむ等の支援に努めている。利用者様同士の関係を把握し席替え等を行っている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	隣接施設に転居された方の面会を行ったりしている。必要に応じて、本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	普段の会話や関わりの中で本人の思いや希望等を聞き出せるように把握している。意向を表出する事が難しい方については生活歴や家族からの情報等を参考にして本人本位の支援に努めている。	職員は日々の関わりの中で利用者の思い等の把握に努めており、利用者からの提案で、昼食前に「百人一首」や「学問のすすめ」を読む・暗唱する等、活気ある時間を設け、１年以上継続している。意思疎通が困難な方には生活歴や家族の情報を参考にしている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートの作成や情報提供書など用いた生活歴や生活環境、アセスメントを十分に行いサービス利用の経過の把握に努めている。本人や家族からの情報を活用している。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別記録を行い、一人ひとりの一日の過ごし方や心身状態の把握に努めている。有する力については主観的な現状把握だけでなく、FIMやADLを定期的に見直し、客観的に状態把握をして統一した処置が出来るように努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や御家族の意向、職員の日頃の気付きを取り入れて計画書を作成している。看護師や医師、PT等に相談や助言をもらい、他職種が協力し合うことで本人がより良い生活が送れるよう介護計画書の作成を行なっている。	利用者の心身状態の変化や状況、今後予測されるケアや治療等も視野に入れ、職員・医師の気付きや意見等を反映しながら、一人ひとりの個別計画を作成している。６ヶ月毎または状況に応じて見直しも行っており、作成・見直しの際は、本人・家族に報告のうえ了承を得ている。書面上の署名押印がある。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果・気付き等を日々個別記録に記載し、普段と様子が違うことは一目で分かるように青で色分けして記入している。また、申し送りや月１回の職員会議を利用し、全職員が情報を共有し、よりよいケア、介護計画の見直しや実践に活かしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院への受診や個人的な買い物について、いつでも柔軟に対応出来るよう体制を整えている。また、外出等については、本人の要望や体調、天候を考慮して、臨機応変に対応出来るようにしている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方が季節の野菜を届けてくれたり、民生委員さんから野菜の種を頂く等の交流がある。行事開催時は、地域の学生等のボランティアによる援助も受けている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望されるかかりつけ医を継続して受診して頂いている。また、希望があれば、協力病院等の受診の紹介を行なっている。付き添い時の介助方法や情報の伝達等は職員または看護師よりその都度説明を行なっている。	利用開始までの経過や今後の治療方針、家族・本人の希望等を確認したうえで受診を支援している。受診方法については、予め家族に合意を得たうえで、事業所と同じ敷地内のクリニックであれば職員が送迎、その他は基本的に家族が送迎・受診の介助を行うが、状況に応じて職員が行う場合もある。受診の結果等を家族と事業所が共有している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間、看護師や協力病院との連携を確立しており、受診の相談はいつでも可能である。また、担当看護師による健康管理面でのチェック、個別での相談を行い、家族への情報提供やアドバイス等の支援も行っている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院が発生した際には、協力病院の医師・看護師・ソーシャルワーカー、当事業所の医師・看護師・介護職員による情報交換や相談、計画を出来る準備、体制が整っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体力や機能の低下がみられ、入院等が今後必要になりそうな場合には、早い段階で本人や家族に説明を行い、事業所で出来ること・困難事例を十分に理解して頂いて、病院及び看護師と相談の上、支援を行っている。	重度化や終末期についての方針を明文化しており、利用開始・契約時に説明を行い、利用者や家族の意向も確認している。この意向を大切にしながら、関係者で繰り返し話し合い、合意を図ったうえで支援を行っている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	怪我、骨折、発作、意識不明の対処方法について、看護師の協力の元で勉強会を行っている。また、実際に事故が発生した場合の状態の説明、対処方法についてもその都度指示を行なっている。夜間帯等の応急手当、対処方法、連絡についても職員が熟知している。母体の協力も受けられるよう対応がなされている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年２回の災害時の訓練は消防署や隣接施設等の協力を得ている。設備点検については定期的に業者に行なってもらっている。地域との協力については、施設裏のゴルフ場に協力をお願いしている。	防災マニュアルを整備している。年２回の避難訓練のうち１回は消防署立ち会いのもと行っている。地域住民にも参加を呼びかけている。消防署の協力のもと、避難経路や消火器的使用方法についても確認している。非常用飲・食料、備品は隣接の特養施設に備蓄している。	
【Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	御利用者様一人ひとりの自立と尊厳を守る為、プライバシーの保護に十分配慮し、対応を行っている。	職員は利用者の人格を尊重して、声のかけ方、言葉遣いや接し方等に注意して利用者の誇り等を損ねないよう配慮している。プライバシーの保護についても徹底している。管理者は内部研修を行い等意識向上に努めており、気がついた事は職員同士でその都度注意し合っている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一日の生活の中で、職員の一方的な援助ではなく、本人が自己決定を行なえるような声かけや活動提供を行なっている。また、自己決定が困難な方については、何気ない仕草や言葉を見逃さずに思いを表出出来るよう支援している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	御利用者様の自主性や希望を尊重し、職員中心の生活ではなく、食事の手伝いや洗濯物たたみ、縫い物、塗り絵、テレビ視聴等、個々に自分の時間を大切にしている。また、気分転換に、散歩やドライブ、買い物等も可能な限り御利用者様の要望を提供出来るよう努めている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度、訪問理容を実施。慣れ親しんだ理・美容院の継続利用の希望があれば、家族の協力や職員にて対応を行っている。衣類に関しては、好みの衣類を着用し、自主性を尊重している。また、外出時や誕生会等には化粧をして頂くように支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や盛り付け、片付けを職員・利用者様で共に行なっている。御利用者様については各自役割を見つけ、出来ることを職員が支援しながら行っている。食事は職員との談話や音楽を流す等し、家庭的な雰囲気や楽しい雰囲気食事が出来るよう意識している。	職員と利用者は準備・片付けを一緒に行っている。一部の職員が利用者と一緒に同じ食事をとっている。食事中は職員が介助や見守りをしながら会話を引き出し、畑の収穫物を献立に取り入れる等、楽しいひとときになるよう努めている。利用者の嗜好の把握、栄養バランスにも配慮している。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	御利用者様の栄養バランスを考え、現在、副食のみ調理済食材を利用している。また、個々の症状や身体状態に応じた食事形態で提供し、食事、水分摂取量を職員が把握している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの必要性を職員が把握している。御利用者様全員、毎食後にブラシ・スポンジブラシ等の必要物品を準備し、指導または介助を行っている。義歯使用者については週2回ポリドントで消毒を行い、記録している。また、訪問歯科を依頼し、必要に応じて治療や指導を受けている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、失禁軽減に向けて時間帯によるトイレ誘導や支援を行っている。	職員は利用者の排泄パターンを把握しており、誘導の際には周囲に配慮し、本人の尊厳を損なわないようさりげなく行っている。失禁時等の対応も手早く周囲に気付かれない様配慮している。オムツ等の使用を減らすような支援を前向きに行っている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防については、薬物に頼らず、食物繊維や乳製品を食事やおやつ等に取り入れたり、運動や排泄時に腹部マッサージを行なっている。また、水分摂取量をチェックし、便秘予防に努めている。便秘時には、医師や看護師に相談を行い対応している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった入浴の支援をしている	毎日入浴を行い、本人の気分や体調等を考慮し、希望を受けながら入浴を行っている。入浴時の不安・羞恥心・プライバシーに配慮を行い、一人ひとりに合った入浴を実施している。また、他利用者と一緒に入浴を希望される方については安全に考慮し、一緒に入浴を楽しんで頂いている。入浴拒否がみられる際は、声掛けや誘導方法を工夫して入浴して頂いている。	基本は午前中に行っているが、毎日いつでも入浴できるよう対応している。入浴拒否の場合は無理強いせず、時間をずらして声かけする等柔軟に対応している。気が合う2人で入浴したり、入浴中に演歌を流したり、菖蒲湯・ゆず湯を取り入れ、入浴が楽しくなるよう配慮している。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や疲労等に応じて休息をとって頂き、日中を活動的に過ごして頂けるよう配慮している。また、日中の傾眠に気をつけ、昼夜逆転にならないよう活動への参加を促して夜間の安眠に繋がるよう努めている。夜間眠れない方に対しては、お茶の提供や談話等で本人が眠るまで過ごして頂いている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が薬の内容（目的・用量・用法・副作用等）について把握出来ている。特に風邪等の臨時薬を内服する方については、定時での検温や症状等を記録し、変化を確認している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や能力を把握し、お手伝い等の役割を持って過ごして頂いている。また、本人にとって何が楽しみとなるのか理解を深められるように普段の関わりから把握出来るよう努めている。気分転換については、ほぼ毎日散歩を行ったり、レクリエーション、慰問参加、行事計画を行なっている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	普段の会話の中から利用者様の希望の場所を聞き出して、季節により、月1～2回の外出行事を行っている。また、利用者様の体調不良や雨天以外は、ほぼ毎日屋外散歩を行なっている。その他、個人の希望に沿った外出や買い物等を行なっている。	体調、希望、天気等に応じて外出の支援を行っている。1ヶ月に1回季節の花を見に行く等遠出をする。また毎日の散歩や買い物、近くのドライブ等に職員と一緒に個別対応で出掛ける事も多い。回転ずし等の外食にも行く。外出の際には利用者が普段行けない場所を選ぶ等の対応に努めている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭所持は控えてもらっているが、管理の希望がある方については、所持をして頂き、お金を持つという安心感を持って頂いている。また、外出行事で買い物に行く際は、個人のお小遣いを所持して頂き、自由に買い物を楽しんで頂いている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、家族への電話等を取り次ぎ対応している。手紙のやり取りは、手紙を書くことが困難である方が多い為、職員が月ごとの活動内容や御利用者様の日常の様子・状態等をグループホーム新聞「その人らしく」に掲載して連絡を行なっている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間では御利用者様と共に季節に応じた装飾を行ったり、行事や外出時等の写真を定期的に掲示・貼り替えを行なっている。また、華道サークルにて四季折々の花を使った作品を展示することで、居心地のよい空間作りに努めている。ホール内は、和室、手摺り、マッサージ機、ソファ等を設置し、御利用者様の生活にプラスとなるよう努めている。	ゆったりとした雰囲気の中で、床はフローリング、壁面など落ち着いた色調で安心感があり、家庭的である。母の日の生け花や職員と利用者で共同制作した花の飾りが壁面にあり、季節を感じる事が出来るよう配慮している。職員の声やテレビの音にも気を配っており、西陽の強さにはカーテン等で対応し配慮している。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室は共有スペースを中心とした個室となっており、人の気配を感じながらも一人で過ごすことができる。共有スペース内にはソファやマッサージ機、ルームマーチ等を設置し、御利用者様が思い思いに過ごせるよう努めている。居室の場所や共有スペースでの席位置は、御利用者様の状態や利用者様間の関係を考慮して配置している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	床頭台は設置しておらず、ベッドとタンス以外は御利用者様や御家族の意向を取り入れ、御家族の写真や本等、本人が使い慣れた物や好まれる物、テレビ、仏壇、机等を置かれる方もおられ、その人らしい安心できる居室づくりに努めている。	それぞれの居室には、生活の歴史が伝わるような写真、馴染みの家具や調度品、仏壇、冷蔵庫、ソファ、ぬいぐるみ等が持ち込まれ、本人が居心地良く過ごせるような工夫をしている。ベッド・エアコン・タンスは施設提供されている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室内は個々の身体機能を最大限に活かし、且つ、危険を最小限とするようなベッドや家具の配置を行なっている。共有部分に関しても、作業し易い台所の高さや物干しの高さ等、環境整備に努めている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
Ⅴ サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
Ⅴ サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある
			○	②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての家族等が
			○	②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅰ 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	御利用者様の自立と尊厳を守りながら支援を行い、理念に添った日々の営みを行う為に毎月月末に会議を行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事へ参加したり、地域の方へ施設の行事へ参加して頂いたりし交流を図っている。桜見物や地域のクリスマス会、どんど焼き等地域の一員として地域との交流を深め暮らし続ける様努めている。又、地域の方より季節の野菜を頂くなどの日常的な交流がある。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域役員や家族との協力の下、地域の小学生を招待しおやつと一緒に作ったり、ゲームをしたりして認知症高齢者との触れ合いを行っている。又、地域の方向けに認知症の勉強会などを行なっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では御利用者様やサービスの状況、経過、今後の方向性等についての報告や説明を行い、家族や来園の方々との意見交換会を行いサービス向上に努めている。時期によっては、感染症、ノロウィルス、インフルエンザ等に関する対策、説明を行なっている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、情報交換を行い、支援時の協力関係を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関して禁止となる具体的な行為を理解し、全職員で拘束のないケアの実践に取り組んでいる。 1名のご利用者に関して自傷行為、不潔更衣に対し家族の承諾を頂きミトンを使用中である。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての勉強会を行い身体的な虐待だけでなく言葉や態度による虐待についても全職員が把握し、虐待が起こらないように、また見過ごさないように日頃から表情の変化や身体の状態などに注意を払っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員が権利擁護や後見人制度についての研修に参加しホーム内での全職員で勉強会を行い理解すると共に活用できるようにしている。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ前に本人、ご家族と十分に話す機会を設け説明を行い不安や疑問を解消して頂ける様努めている。改定の際にも全家族に連絡を行い直接説明を行なっている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コミュニケーションを図り利用者様の意見・苦情・思いなど自由に発言できる環境を作っている。運営推進会議の中で雑談の時間を取ったり食事を開催する事で意見や要求を言い易い雰囲気作りに努めている。意見の反映についてはすぐに対応できるよう努めている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度職員会議を開催し職員の意見や提案を出し合っている。日頃から職員の気付きを大切にし提案を実行できるようにしている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職群転換制を取り入れ人事評価の結果により準職員から正職員に転換できるようになっている。賞与については半年ごとに評価を反映させている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の募集に関しては性別や年齢等を理由に採用するのではなく、きちんと面接を行い採用を行っている。働く職員に対しても能力を発揮し自己実現の権利が十分に保障出来る様に昇給制度だけでなく準職員の正職員登用制度を取り入れている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	年間の勉強会の中に計画を立て、職員等に対する人権教育、啓発活動の教育を行なっている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員を育てる取り組みとしてグループホーム勉強会を毎月実施している。又外部研修にも勤務年数や経験を考慮し、それぞれに合った研修に参加出来るようにしている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会への参加や外部研修に参加し同業者と交流する機会を設け意見交換などを行なっている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前の相談、面談の際に本人が何に困り不安で今後どのような生活を送りたいのかを本人と家族からじっくり話を聞く機会を設けている。入所後も本人の不安や希望をじっくりと傾聴し安心を確保する為の環境作りに努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談についてはご家族の都合に合わせ時間を作り対応している。ご家族の不安や心配事、困っている事にもじっくり耳を傾けながらご家族にも分かり易い言葉で説明を行っている。ご利用者様を前に相談し難い場合には個別に話を聞いて対応している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談や見学に見えた時に本人や家族が困っている事、どうしたいかを尋ねながら色々なサービスを紹介し選択してもらう方法を取っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備や片付け、洗濯物干しなどを一緒に言いながら、喜怒哀楽を共にし生活している。様々な場面で御利用者様の経験談などから学ぶことが多々あり、お互いに支え合う事ができている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族への面会の声掛け、誕生会や行事への参加の呼びかけ等を行い本人と家族との関わりを絶やさないように努めている。本人を連れての外出、外泊など協力をして頂き、情緒の安定に努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	御利用者様の希望を聞き、外出行事を毎月行っている。また美容室や買い物等の個別外出の機会を設け、なじみの場所へ出掛けている。遠方などの理由により面会が難しい方については新聞を作成し家族や親戚の方へ送るなどして関係の継続に努めている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	御利用者様同士で係わり合いを持ち必要に応じてお世話をされたりしている。利用者様同士のコミュニケーションが上手く図れない時は職員が間に入り一緒に会話を楽しむ等の支援に努めている。利用者様同士の関係を把握し席替え等を行っている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	隣接施設に転居された方の面会を行ったりしている。又、必要に応じて、本人や家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	普段の会話や関わりの中で本人の思いや希望等を聞き出せるように把握している。意向を表出する事が難しい方については生活歴や家族からの情報等を参考にして本人本位の支援に努めている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートの作成や情報提供書など用いた生活歴や生活環境、アセスメントを十分に行いサービス利用の経過の把握に努めている。本人や家族からの情報を活用している。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別記録を行い、一人ひとりの一日の過ごし方や心身状態の把握に努めている。有する力については主観的な現状把握だけではなく、FIMやADLを定期的に見直し、客観的に状態把握をして統一した処置が出来るように努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や御家族の意向、職員の日頃の気付きを取り入れて計画書を作成している。看護師や医師、PT等に相談や助言をもらい、他職種が協力し合うことで本人がより良い生活が送れるよう介護計画書の作成を行なっている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果・気付き等を日々個別記録に記載し、普段と様子が違うことは一目で分かるように青で色分けして記入している。また、申し送りや月1回の職員会議を利用し、全職員が情報を共有し、よりよいケア、介護計画の見直しや実践に活かしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院への受診や個人的な買い物について、いつでも柔軟に対応出来るよう体制を整えている。また、外出等については、本人の要望や体調、天候を考慮して、臨機応変に対応出来るようにしている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方が季節の野菜を届けてくれたり、民生委員さんから野菜の種を頂く等の交流がある。行事開催時は、地域の学生等のボランティアによる援助も受けている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望されるかかりつけ医を継続して受診して頂いている。また、希望があれば、協力病院等の受診の紹介を行なっている。付き添い時の介助方法や情報の伝達等は職員または看護師よりその都度説明を行なっている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間、看護師や協力病院との連携を確立しており、受診の相談はいつでも可能である。また、担当看護師による健康管理面でのチェック、個別での相談を行い、家族への情報提供やアドバイス等の支援も行っている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院が発生した際には、協力病院の医師・看護師・ソーシャルワーカー、当事業所の医師・看護師・介護職員による情報交換や相談、計画を出来る準備、体制が整っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体力や機能の低下がみられ、入院等が今後必要になりそうな場合には、早い段階で本人や家族に説明を行い、事業所で出来ること・困難事例を十分に理解して頂いて、病院及び看護師と相談の上、支援を行っている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	怪我、骨折、発作、意識不明の対処方法について、看護師の協力の元で勉強会を行っている。また、実際に事故が発生した場合の状態の説明、対処方法についてもその都度指示を行なっている。夜間帯等の応急手当、対処方法、連絡についても職員が熟知している。母体の協力も受けられるよう対応がなされている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の災害時の訓練は消防署や隣接施設等の協力を得ている。設備点検については定期的に業者に行なってもらっている。地域との協力については、施設裏のゴルフ場に協力をお願いしている。		
【Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ない言葉かけや対応をしている	御利用者様一人ひとりの自立と尊厳を守る為、プライバシーの保護に十分配慮し対応を行っている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一日の生活の中で、職員の一方的な援助ではなく、本人が自己決定を行なえるような声掛けや活動提供を行なっている。また、自己決定が困難な方については、何気ない仕草や言葉を見逃さずに思いを表出出来るよう支援している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	御利用者様の自主性や希望を尊重し、職員中心の生活ではなく、食事の手伝いや洗濯物たたみ、縫い物、塗り絵、テレビ視聴等、個々に自分の時間を大切にしている。また、気分転換に、散歩やドライブ、買い物等も可能な限り御利用者様の要望を優先して提供出来るよう努めている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度、訪問理容を実施。尚、慣れ親しんだ理・美容院の継続利用の希望があれば、家族の協力や職員にて対応を行っている。衣類に関しては、好みの衣類を着用し、自主性を尊重している。また、外出時や誕生会等には化粧をして頂くように支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や盛り付け、片付けを職員・利用者様で共に行なっている。御利用者様については各自役割を見つけ、出来ることを職員が支援しながら行っている。食事は職員と談話を交えながら、家庭的な雰囲気や楽しい雰囲気ですぐに食事が出来るよう意識している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の栄養バランスを考え、現在、副食のみ調理済食材を利用している。また、個々の症状や身体状態に応じた食事形態で提供し、食事、水分摂取量を職員が把握している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの必要性を職員が把握している。御利用者様全員、毎食後にブラシ・スポンジブラシ等の必要物品を準備し、指導または介助を行っている。義歯使用者については週2回ポリドントで消毒を行い、記録している。また、訪問歯科を依頼し、必要に応じて治療や指導を受けている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、失禁軽減に向けて時間帯によるトイレ誘導や支援を行っている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防については、薬物に頼らず、食物繊維や乳製品を食事やおやつ等に取り入れたり、運動や排泄時に腹部マッサージを行なっている。また、水分摂取量をチェックし、便秘予防に努めている。便秘時には、医師や看護師に相談を行い対応している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった入浴の支援をしている	毎日入浴を行い、本人の気分や体調等を考慮し、希望を受けながら入浴を行っている。入浴時の不安・羞恥心・プライバシーに配慮を行い、一人ひとりに合った入浴を実施している。また、他利用者と一緒に入浴を希望される方については安全に考慮し、一緒に入浴を楽しんで頂いている。入浴拒否がみられる際は、声掛けや誘導方法を工夫して入浴して頂いている。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や疲労等に応じて休息をとって頂き、日中を活動的に過ごして頂けるよう配慮している。また、日中の傾眠に気をつけ、昼夜逆転にならないよう活動への参加を促して夜間の安眠に繋がるよう努めている。夜間眠れない方に対しては、お茶の提供や談話等で本人が眠るまで過ごして頂いている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が薬の内容（目的・用量・用法・副作用等）について把握出来ている。特に風邪等の臨時薬を内服する方については、定時での検温や症状等を記録し、変化を確認している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や能力を把握し、お手伝い等の役割を持って過ごして頂いている。また、本人にとって何が楽しみとなるのか理解を深められるように普段の関わりから把握出来るよう努めている。気分転換については、ほぼ毎日散歩を行ったり、レクリエーション、慰問参加、行事計画を行なっている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	普段の会話の中から利用者様の希望の場所を聞き出して、季節により、月１～２回の外出行事を計画している。また、利用者様の体調不良や雨天以外は、ほぼ毎日屋外散歩を行なっている。その他、個人の希望に沿った外出や買い物、美容等を行なっている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭所持は控えてもらっているが、管理を出来ず希望がある方については、小銭等の所持をして頂き、お金を持つという安心感を持って頂いている。また、外出行事で買い物に行く際は、個人のお小遣いを所持して頂き、自由に買い物を楽しんで頂いている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、家族への電話等を取り次ぎ対応している。手紙のやり取りは、手紙を書くことが困難である方が多い為、職員が月ごとの活動内容や利用者様の日常の様子・状態等をグループホーム新聞「その人らしく」に掲載して連絡を行なっている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間では利用者様と共に季節に応じた装飾を行ったり、行事や外出時等の写真を定期的に掲示・貼り替えを行なっている。また、華道サークルにて四季折々の花を使った作品を展示することで、居心地のよい空間作りに努めている。ホール内は、和室、手摺り、マッサージ機、ソファ等を設置し、御利用者様の生活にプラスとなるよう努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室は共有スペースを中心とした個室となっており、人の気配を感じながらも一人で過ごすことができる。また、静養室としての和室には、テレビやコタツを設置し、2～3人でゆったりと過ごせるスペースを提供している。居室の場所や共有スペースでの席位置は、御利用者様の状態や利用者様間の関係を考慮して配置している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	床頭台は設置しておらず、ベッドとタンス以外は利用者様や御家族の意向を取り入れ、御家族の写真や本等、本人が使い慣れた物や好まれる物、テレビ、仏壇、机等、その人らしい安心できる居室づくりに努めている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室内は個々の身体機能を最大限に活かし、且つ、危険を最小限とするようなベッドや家具の配置を行なっている。共有部分に関しても、作業し易い台所の高さや物干しの高さ等、環境整備に努めている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
Ⅴ サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：25, 26, 27）	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：20, 40）		①毎日ある
			○	②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：40）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：38, 39）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
			○	③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：32, 33）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 （参考項目：30）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
			○	③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての家族等が
			○	②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない